



令和元年8月30日 発行

# 学校だより 9月 第348号

横浜市立六つ川西小学校 (TEL) 742-6301 (FAX) 743-2394

URL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawanishi/index.html>

## 「体験した者でないと分からないこと」

学校長 小倉 睦

猛暑に耐え、蒸し暑さに負けず、児童がたくましくなって学校に戻ってきました。児童一人一人が夏休みに体験した数々のことを把握して、前期後半の学校生活に生かしていきたいと思います。

さて、この夏も「体験した者でないと分からないこと」がたくさんあったことと思います。夏休みの始まりの7月には4、5、6年生対象、夏休みの終わりの8月には1～6年生対象の夏休み水泳教室が行われました。今年の水泳教室も25m 泳ぐことを目指す児童や南区の水泳記録会や市の水泳大会でよい記録を出すことを目指す児童が参加しました。毎年水泳教室では、授業での水泳よりも子どもたちの上達が著しいです。その理由の一つは、少人数で泳力別に担当教諭が複数ついたり、中にはマンツーマンで指導したりすることです。もう一つは、子どもたち自身が「25m泳げるようになるぞ。」「市水泳大会に出たい。」などの自分の目標が分かりやすく自分のものになりやすいことです。7月の水泳教室では、はじめのうちは水に顔を付けることを怖がっていた4年生児童が水泳教室が始まって4日目にはクロールで24m まで泳げるようになりました。また、区水泳記録会でも一人一人が自分の力を精一杯発揮し、ほとんどの児童がベスト記録を更新することができました。8月の水泳教室では、横浜国際プールで行われた水泳大会に南区代表で出場した選手は、約1時間の練習で2kmほどの泳ぎこみを行い、男子200m リレーでは横浜市第11位、男子50m 自由形、平泳ぎでは10位に入るなど、立派な成績を収めることができました。

また、特別音楽クラブは7月25日(木)毎年恒例の県の吹奏楽コンクールに出場し、相模原グリーンホールいっばいに見事な演奏を披露しました。結果は銀賞でしたが、大舞台での緊張感漂う中、4年から6年までの部員全員が気持ちを一つにした、なかなか得難い経験ができました。

これらの児童の頑張る姿を目の当たりにして感じたことは、数字に表れるもの、できるようになることなど目

に見えるものが、児童に意欲をもたせ、興味を喚起することができるということです。そして、それが児童の活動や努力を持続させる原動力になるということです。夏休み明けからの教育活動においても、この夏、児童が気付かせてくれたことを生かして、各教科・特別活動等すべてにおいて目に見えるもので、児童の興味関心を喚起できることを職員全体で情報共有して「体験した者でないと分からないこと」を味わえるようにしていきたいと思います。

ところで、この夏は全英女子オープンゴルフで日本の渋野日向子選手が42年ぶりの日本人メジャー優勝という快挙を達成しました。優勝はもちろん見事ですが、それと同じように素晴らしかったことは、笑顔で世界の人と交流できたことです。渋野選手は、スマイルシンデレラの愛称が生まれたようにプレーの合間にしばしば笑顔を見せていました。コース間の移動の際もギャラリーと笑顔でハイタッチしたり、小さな子どもを見かけると必ず立ち止まって手を合わせたり等々、温かい心配りで世界の人々を魅了しました。

試合を終えた渋野選手は、インタビューで「笑顔は世界共通なんだなということ強く実感しました。言葉が通じなくてもコミュニケーションをとれることを感じました。」これも全英オープンの大舞台を体験した渋野選手だからこそ分かったことです。

海外メディアは渋野選手の強さの秘密の一つを、人々を味方に付けられるコミュニケーション力にあると伝えていました。今年のラグビーW杯、来年の東京オリンピックと日本は、世界の人々を迎えます。常に笑顔絶やさない20歳の渋野選手を通して、人として大切な心に気付かされた思いがしました。

六つ川西小でも夏休み明けの学校生活における遠足・校外学習や運動会、地域清掃などの様々な体験を通して分かることは何なのかを視野に入れて、常に笑顔絶やさず取り組んでいきたいと思えます。保護者、地域の皆様、ご協力よろしくお願ひします。